

核兵器全面禁止のアピール署名・「原爆展」で世界を変えよう

# 核兵器のない世界へ

発行 2012年8月1日

原水爆禁止長崎県協議会  
〒852-8107 長崎市浜口町6-5 木下ビル4F  
TEL 095-844-0705 FAX 095-844-0728  
Eメール nagasaki05@forest.ocn.ne.jp

## 「原爆と人間」被爆パネル展

7月26日(木)～28日(土)アルカス佐世保で開催

3日間で1500人が入場 佐世保原水協

「見てくださいのパネルの前では涙が出てとまりませんでした。まるで粘土細工のようにかたまりと化した少年。幼い弟を背負って火葬を見送ったおにいちゃんのけなげさがたまらなかったです。涙もこぼさず焼かれていく弟を見つめることができるなんて、教育の恐ろしさがここにあるのでしょうか。原爆ってすぐに髪の毛が抜けるほど強いのですね。改めて恐ろしさがわかった気がします。原発は稼動しないでほしい。」60代の感想です。佐世保市の協力もあり駅の隣、佐世保の中心街にあるアルカス



させぼの交流スクエアーで開催された原爆展は平和を希求する人間のあつい思いが感じられる催しになっています。花が飾られ、立派な原爆と人間の題字、手書きの昭和25年1月3日の「市民はその創意をもって港を永久に平和港として育成することをここに宣言する」の平和都市宣言の前には折鶴が置かれていました。折鶴や署名のコーナーもあり、鶴を折りながら「私は諫早から見たと最後は虹の見た、忘れんばい。」と対話もあります。オープニングセレモニーには長崎被災協の山田拓民事務局長が平均年齢が78歳、被爆者の最後のメッセージともいわれる「原爆展」の意義を語り、県原水協の佐藤事務局長は連帯のあいさつをしました。主催の佐世保原水協の山下千秋理事長は「やって良かった。アルカスの方も含め、たくさんの協力で開けた。何よりも多くの市民が観に来てくれ、ご意見、ご感想たくさん寄せて頂いたことが良かった。」語っています。



## 「記憶に残そう戦争の真実」第5回写真展でパネル展示 7月21日(土) 諫早本町アーケードで開催

主催 「青空」学習会

アーケード通りにいっぱい写真等、戦争を語り継ぐコーナーでは被爆者の話や法話、コーラスなどが。



雲仙市に行く網の目平和行進

被爆から67年目、「核兵器のない世界へ」。島原の網の目平和行進実行委員会が雲仙市、島原市、南島原市を訪問した際、自治体独自で被爆写真パネル展を公民館などで開催していることがわかりました。核兵器全面禁止・廃絶へ自治体との共同の条件が広がっています。雲仙市、島原市、南島原市、3市を7月23日に訪問、市長・議長と懇談をしました。